

農業技術短報

No.53 2001. 7. 1
三重県科学技術振興センター
農業研究部
畜産研究部

<はじめに>

○科学技術振興センターの組織再編整備について	1		
<研究成果の紹介>			
○良質、良食味で多収の水稲新品種候補系統「三重6号」	2	○ α -リノレン酸強化豚肉の加熱調理による影響	9
○甘ガキ生産におけるの経営安定のための作期拡大技術	3	○集落の農業計画づくりを支援する「営農戦略策定システム」の開発	10
①ハウスを利用した「前川次郎」の促成栽培			
○②不織布等の被覆資材を利用した「前川次郎」の抑制栽培	4	○間接的な経済効果を対象に含めた農業政策の目標と評価	11
○③収穫期拡大による長期出荷体制の確立	5	○有用生物を利用したトマト、イチゴの病害虫防除（概要）	12
○アテモヤの棚仕立て栽培における品種特性	6	○イチゴ萎黄病に対する精度の高い抵抗性の検定方法	13
○畦畔被覆シートの営農的施工技術	7	○天敵糸状菌のべたがけ資材併用によるコナガ防除効果の安定化	14
○飼料イネ用自走式収穫機械	8		
<トピックス>		<お知らせ>	
○農業研究部一般公開を開催して	15	○組織体制ほか	16

<はじめに>

科学技術振興センターの組織再編整備について

農業研究部総務企画グループ

平成10年4月に、三重県科学技術振興センターが県内公設試験研究機関を統合する形で創設されました。これは、産学官の連携による共同研究や研究を担う人づくり、研究ネットワークづくりを進め、新たな課題に対応した科学技術施策を推進し、その成果を県民生活の向上や地域経済の活性化につなげるという目的でした。3年経過し、研究機関相互の交流が進み、地域の研究ポテンシャルを結集させた産学官の共同研究が立ち上がるなど、研究ネットワークの拡大に成果を上げてきました。しかし、解決すべき課題も依然として残されており、より高度な次元で成果を上げるために、本年4月に組織体制の見直しを行いました（下図参照）。

永年親しまれてきました「農業技術センター」は、農業関係が「農業研究部」、畜産関係が「畜産研究部」として独立するとともに、内部体制を再編しました（16ページ参照）。

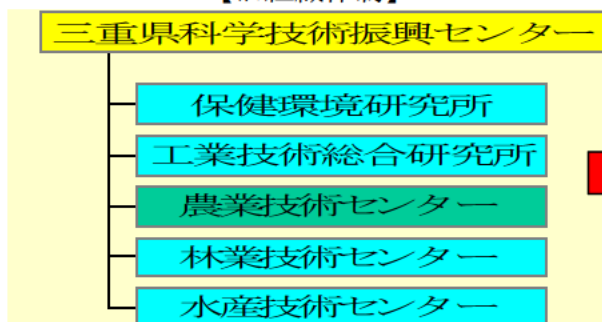
農業研究部においては、部内の連携強化と新しい課題解決のために、「花植木センター」の農業研究部園芸グループへの編入と、生物機能開発グループと地域経営グループを設置しました。

畜産研究部においては、将来のニーズを見据えた先端的研究への推進を図るため、3つのグループの再編と新たに企画調整担当を配置しました。

組織名は変わりましたが、この「農業技術短報」は名称はそのままとし、これまでどおり農業部門と畜産部門の研究成果等を紹介する情報誌として、両研究部合同で発行していきます。今後ともご意見やご支援を賜りますようお願いいたします。

組織名は変わりましたが、この「農業技術短報」は名称はそのままとし、これまでどおり農業部門と畜産部門の研究成果等を紹介する情報誌として、両研究部合同で発行していきます。今後ともご意見やご支援を賜りますようお願いいたします。

【旧組織体制】



【新組織体制】

